

文化財センター通信

【かざぐるま】

風車 11



平成16年9月1日発行

紀州の歴史と文化の風

640-8404 和歌山県和歌山市湊571-1

発行：財団法人 和歌山県文化財センター

Tel : 073 (433) 3843 Fax : 073 (425) 4595



■ 速報展に伴い、那智・高野山に関わる講座を開催

主な内容

巻頭写真

- 1 第14回(財)文化財センター速報展「紀州の歩み」開催中
- 2 旧中筋家住宅の部屋としつらえ③
- 3 コラム・考古学の散歩道
高野山の地質
- 4 和歌山文化財クロスワード②解答
- 5 現場速報
- 6 お知らせとご案内

第14回文化財センター速報展「紀州の歩み」開催中

丹野 拓

当センターでは、前年度の発掘調査や建造物の保存修理の成果を紹介する場として、速報展「紀州の歩み」を開催しています。今年は紀伊風土記の丘にある資料館を会場として、埋蔵文化財と文化財建造物に関するものを合計278点展示しています。速報展は第1部・昨年度の発掘調査、第2部・紀伊山地の霊場と参詣道における過去の調査、第3部・文化財建造物の保存修理、の3部構成で展示を行っていますので、ここでは各部から1点ずつ展示品の紹介をしたいと思います。

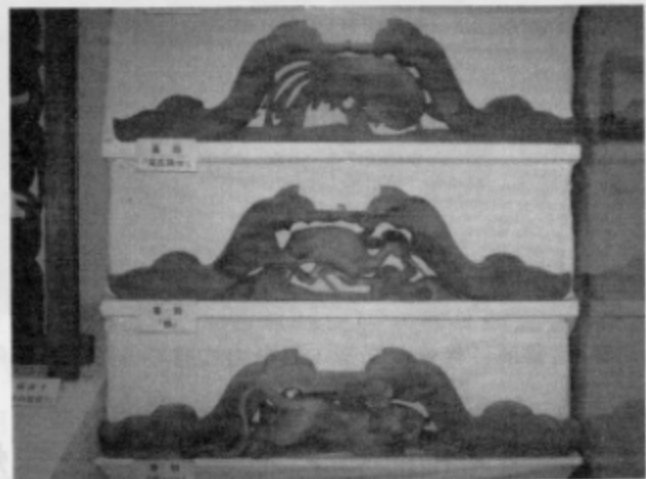
第1部からは、橋本市柏原遺跡で出土した土偶の発見時のエピソードを紹介しましょう。この土偶は10cm程度の土製人形で縄紋時代に作られたものですが、何故か弥生時代のお墓を区画する溝から出土しました。柏原遺跡の土にはこの土偶と同じくらいの大きさの石が大量に混じっているため、出土したときは見分けがつかせませんでした。作業員のおじさんが捨てようとして手に持ったところ石より微妙に軽かったらしく、「軽石」として遺物カゴに入れられました。その様子をすぐ近くで見ていたのですが、不自然な形が気になり水溜まりで少し洗ってみると、胸の部分に突起があり、土偶に間違いありませんでした。お

じさんが少し軽いことを不思議に思わなければ、土偶はそのまま気づかれずに数千～数万個の石とともに、捨てられてしまうところでした。こうして危機一髪のところで拾われた土偶は、展示室の最初のガラスケース内に展示されています。

第2部には、熊野や高野山で出土した陶磁器類を展示していますが、昨年度報告書を刊行した藤倉城跡の茶道具類をピックアップしてご紹介します。藤倉城は那智大社の入口を押さえる要所にある城館で、館部からは多量の国産陶磁器・輸入陶磁器が出土しています。多数の唐津や瀬戸美濃の天目茶碗とともに茶臼も出土しており、この城では茶会が開かれていたものと考えられています。当時、茶の湯は戦国大名の間で盛んに行われており、藤倉城の城主と考えられる実方院米良氏も茶の湯を嗜んでいたようです。タイ製の四耳壺は花活けに使ったのではないかと考えられており、文化交流圏の広さが窺われます。

第3部では、岩出町荒田神社本殿の彫刻をずらりと並べています。この建物は神社の狛犬台座の銘文などから、寛永元（1624）年頃の建築と考えられています。銘文によると、狛犬は地元である根来坂本出身の大工・塀ノ内正信が江戸から送ったもので、なんと龜甲製であったようです。塀ノ内正信は幕府の作事方大棟梁に出世し、『匠明』という江戸時代を代表する木割書（設計図集）を著した名工で、動植物等をあしらった見事な彫刻は、彼と一門の技術者たちの心意気を今に伝えてくれる気がします。

速報展「紀州の歩み」は9月23日まで開催しています。この機会に紀伊風土記の丘へ出かけて、和歌山県の歴史をぶらっと覗いてみてはいかがでしょうか。一人でも多くの方に見て頂けたら嬉しく思います。



■ 荒田神社の部材（葺股）に施された彫刻

【旧中筋家住宅の部屋としつらえ】③

鈴木 徳子

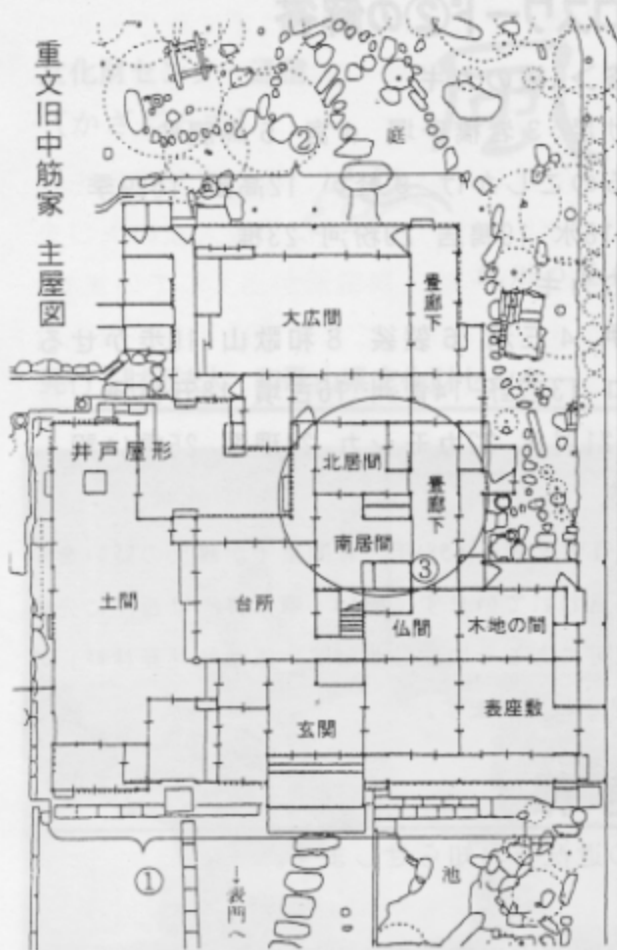
重要文化財旧中筋家住宅保存修理事務所

— 中筋家の主屋 その1 —

今回からは、それぞれの建物についてお話ししたいと思います。

まず中心となる主屋ですが、嘉永5年（1852）に建てられました。この建物は、下の図のように、①から③までの3つの部分がコの字型に繋がっています。①は、土間・台所と、玄関、表座敷部分からなり、井戸屋形が付属します。②は、大広間とそれを取り囲む廊下と、風呂便所が付属します。③は、①と②を繋ぐ取合部分で、畳廊下と居間2室からなり、この部分のみ3階建てとなっています。このような間取りを反映して、屋根も複雑な納まりとなり、重厚な外観となっています。

ところで、これだけ大きな建物ですが、ふだん家の人を使うのは、土間・台所と居間、木地の間（主人の居間）程度であったようです。玄関・表座敷・畳廊下・大広間などは接



客のための空間で、特別なことがない限り、家の人が入ることはありません。

特に大広間は、かなり身分の高い、例えば藩主などの来客を想定してつくられたと考えられますが、実際に御成りがあったという記録はありませんから、使うことはなかったのかもしれない。

現代の住宅ならば、庭の眺めや日当たりの良い部屋は、家族もお客様も一緒にくつろぐ居間として使うことが多いでしょう。ところがこの当時は、良い部屋は接客空間として特別に取り置き、家族は残りのさほど広くもない空間で、つつましく生活していたようです。

こうしたことから、時代背景を読みとることが出来ます。

■ 重文中筋家 主屋図

【コラム・考古学の散歩道】高野山の地寶

村田 弘

平安時代の初め、弘法大師・空海によって開かれた高野山は、現在に至るまで人々の厚い信仰を集める聖地として知られています。

その高野山では昭和40年——いまからもう40年近く前になりますが、開創1150年の記念事業として奥の院(大師の御廟所周辺)の整備を行うことになりました。現在、奥の院には鉄筋コンクリート製の大きな灯籠堂が建てられていますが、これもその時に建てられたものです。

こうした整備工事の途中に地中から壺や甕などの焼き物、古銭・鏡・石仏などたくさんの埋蔵文化財が出てきました。こうしたことから、急速、専門家を集めて調査行った結果、これらは平安時代の終わりから鎌倉時代にかけての納骨器やお経を納めた容器などであることがわかりました。出土した焼き物には、古瀬戸の四耳壺や中国で作られた白磁の四耳壺、青磁の壺などの優品が数多くあります。

この時代は末法思想と浄土信仰の最も盛んな時期にあっており、おそらく都の貴族たちが、聖地である高野山にその願いを込めて埋納したものでしょう。見つかったものはそのごく一部で、まだまだ奥の院周辺にはこうした品が人知れず埋まっているものと思われます。それらは、まさしく高野山の地寶であり、当時の人々の祈りの声が聞こえてくるような気がします。なお、この調査成果を収録した報告書として『高野山の地寶』が昭和50年に刊行されています。

前号・和歌山文化財クロスワード②の解答

1	カ		2	キ	イ		4	ミ	ウ	ラ
6	ケ	サ		8	ワ	カ	ヤ	マ		
10	ア	ル	カ	セル			11	コ	コ	
13	シ	ノ		14	セイ	イ	シ	ユ	ウ	
		16	コ	フ	ン		キ		ラ	
18	ゴ	シ	キ	ツ	カ		20	コ	イ	
21	オ	カ		22	カ	モ	シ	カ		
24	リ	ケ	イ		25	イ	イ	ワ	ケ	

<解答> 縦のカギ

1 駆け足 3 岩橋千塚 4 宮 5 馬肥ゆ
7 さるのこしかけ 9 軽い 12 高麗 15 四季
17 露 18 水 19 鴨居 20 粉河 23 椎

横のカギ

2 紀伊 4 三浦 6 袈裟 8 和歌山 10 歩かせる
11 ココ 13 志野 14 青洲 16 古墳 18 五色塚
20 鯉 21 羽化 22 カモシカ 24 理系 25 言い訳

解説

縦23：齊明天皇4(658)年、有間皇子が謀反の疑いをか

けられ牟婁の湯(白浜)に護送される途上で詠んだ歌とされています。横14：華岡青洲は西洋に先駆け全身麻酔手術に成功した江戸時代の外科医です。那賀町にあるその住居兼病院・医学塾「春林軒」の跡地には、発掘調査成果に基づき建物が復原整備・公開されています。

現場速報

当センターの発掘調査・建造物保存修理現場の近況をお知らせします。

埋蔵文化財課

- 橋本市 柏原遺跡(7月下旬終了) 弥生時代中期の方形周溝墓と住居等を確認。
- 海南市 野上中南遺跡(10月上旬終了予定) 松菊里型を含む竪穴住居と掘立柱建物から成る弥生時代中期前葉頃の集落を確認。調査継続中。
- 和歌山市 岩橋千塚古墳群(8月中旬～10月中旬調査予定) 県教委の整備計画に沿って、墳丘・石室の測量・確認調査等を実施中。

文化財建造物課

- 和歌山市 旧中筋家住宅(保存修理中) 長屋蔵・北蔵の素屋根を撤去。道路から修理の終わった姿を見ることができます。現在、主屋・表門の修理を継続中。

お知らせとご案内

第14回文化財センター速報展「紀州の歩み」(共催：県立紀伊風土記の丘)

内容 昨年度の発掘調査や建造物保存修理成果を展示しています。また、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に関連する過去の調査成果の展示も行っています。

開催期間 平成16年7月1日(木)～16年9月23日(木)

開催場所 和歌山県立紀伊風土記の丘資料館(和歌山市岩橋1411) 無料駐車場あり

開館時間 9:00～16:30 閉館日(9/1以降) 9/6・13・21

入館料 大人170円/大学生80円(各種割引制度あり)

問い合わせ先 財団法人和歌山県文化財センター TEL 073-433-3843

和歌山県立紀伊風土記の丘 TEL 073-471-6123

《編集後記：夏です。暑いですが、台風も次々と到来しています。気合入れて、乗り切りましょう。(丹野)》